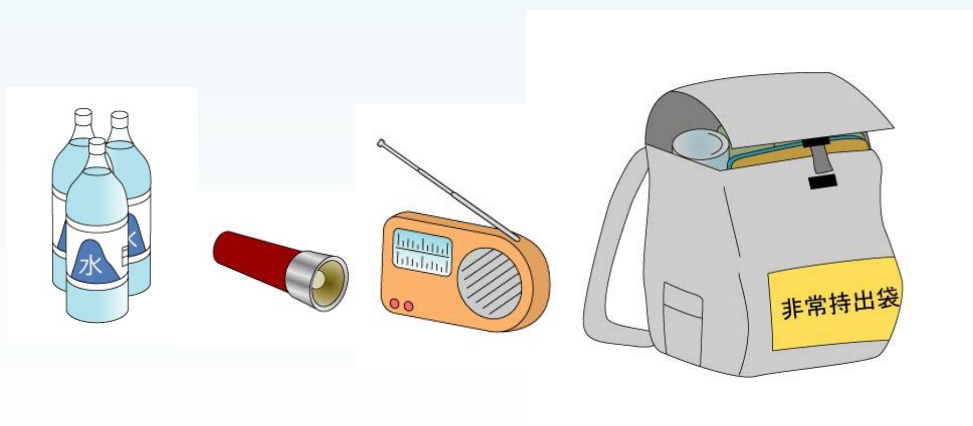


# 増田地区

## 防災マニュアル

「地域ぐるみの防災体制」  
自分たちの地域は自分たちで守る

ひもを通して目立つところにおきましょう  
家族で定期的に確認しましょう



名取市・増田地区

## 目 次

1. はじめに -----	P 1
2. 増田地区について -----	P 1
3. 増田地区の過去の災害について -----	P 2
4. 増田地区の災害対応計画 -----	P 3
5. 増田地区の災害予防計画 -----	P 8
6. 避難所の開設・運営への協力について -----	P 1 0
7. 増田地区防災マップ -----	P 1 1
8. 平成 25 年～26 年の災害と教訓 -----	P 1 2
9. 我が家の防災メモ -----	P 1 3

増田地区の避難場所など

# 1 はじめに

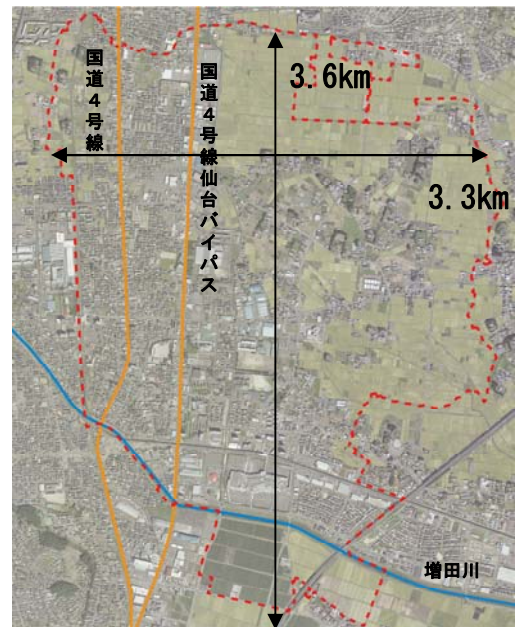
名取市では、東日本大震災の教訓や豪雨災害の経験を踏まえ、平成 25 年 12 月に自助・共助・公助を基本とした防災・減災への取り組みを示した「名取市民防災マニュアル」を作成し、全世帯に配布しましたが、大規模災害による被害を軽減するためには、地域の実情に応じた防災対策を、名取市と地域の皆さんが一体となって実施していくことが重要です。

このマニュアルは、名取市が地域の皆さん（区長さん、町内会長さんなど）と一緒に作成したもので、増田地区で想定する災害やその対応方法などを示したものです。

# 2 増田地区について

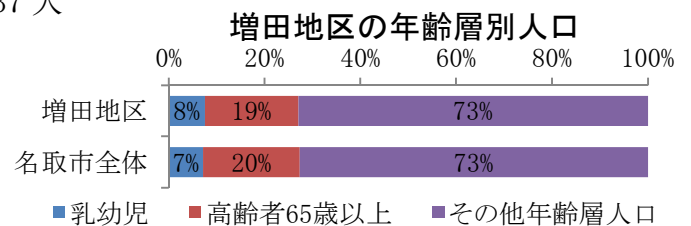
## 地形・地勢

- 増田地区は、面積が 7.73km<sup>2</sup>、東西に約 3.3km、南北に約 3.6km です。
- 市の中央部に位置し、市役所などの公共施設、金融機関、商店街があります。中心市街地の中には古い建物も少なくありません。
- 地区の南には、大型商業施設と新興住宅地が形成されています。また、増田川が流れています。
- 地下水（井戸）を 47 軒で保有しており、飲用可能で、消火活動にも活用できます。



## 世帯・人口

- 増田地区は、世帯数 6,760 世帯、人口 16,637 人と名取市内最大の人口を有しています。
- 増田地区全体の年齢構成は、名取市全体とあまり変わらない地区です。



増田地区の世帯・人口

地区名	世帯数	人口	乳幼児	高齢者 65 歳以上	その他年齢層人口
増田地区	6,760	16,637	1,263	3,233	12,141
名取市全体	28,561	76,107	5,471	15,347	55,289

平成 26 年 12 月末現在

### 3 増田地区の過去の災害について

災害名称及び 災害発生年月日	災害による被害状況と <b>当時の状況</b>
<b>宮城県沖地震</b> 昭和 53 年 6 月 12 日 <b>(仙台市で震度 5)</b>	ブロック塀の倒壊などによる死者、建物被害による多くの負傷者が発生し、都市ガスなどライフラインが停止しました。名取市では、負傷者 200 人、全壊 17 棟、半壊 61 棟、一部損壊 1,623 棟の被害がありました。
<b>8・5 豪雨</b> 昭和 61 年 8 月 5 日 <b>(累計雨量 400 ミリ)</b>	台風 10 号の進路に、海上から多量の水分を含む東風が吹き込んだことにより、宮城県で記録的な豪雨となりました。増田地区では床上浸水 17 世帯 56 人、床下浸水 224 世帯 793 人の被害がありました。
<b>9・22 集中豪雨</b> 平成 6 年 9 月 22 日 <b>(時間雨量 84 ミリ、 累計雨量 478 ミリ)</b>	樽水ダムが満水となり、増田川がはん濫しました。増田地区では床上浸水 35 世帯 108 人、床下浸水 169 世帯 564 人の被害がありました。 JR が堤防となり、線路の西側が浸水しました。増田川では堤防が壊れ、河川改修されました。
<b>東日本大震災</b> 平成 23 年 3 月 11 日 <b>(名取市で震度 6 強)</b>	マグニチュード 9.0 の巨大地震により、強い揺れが約 3 分間継続し、巨大津波により市内で 911 人が犠牲になりました。4 月 7 日の深夜には、名取市で震度 6 弱の余震も発生しました。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・家具の転倒、屋根瓦の破損等住宅被害がありました。</li> <li>・地震による液状化でマンホールが浮き上がりました。</li> <li>・道路と橋の境目で段差ができました。</li> <li>・都市ガス、電気が止まりました。</li> <li>・電話、メールがつながりにくくなりました。</li> <li>・倒れたブロック塀や切れた電線が道路を塞ぎました。</li> </ul>



9・22 集中豪雨  
増田川の応急工事



東日本大震災  
避難者名簿を見る人々

## ●東日本大震災における増田地区住民の対応

増田地区は、地域の方々の協力により、地域の生活支援を実施しました。

①安否確認	自主防災組織や町内会の皆さん、区長や民生委員が安否確認を行い、要支援者を把握しました。
②一時避難	近くの公園や集会所に集まり、揺れが収まるまで一時避難しました。
③炊き出し	町内会・自主防災組織・婦人防火クラブなどが炊き出しを行い、1人暮らしの高齢者などにおにぎりを配りました。
④一時避難場所の開設	避難者のため集会所を開け、一時避難場所を開設しました。発電機で電源を確保し、必要なものを持ち寄りました。
⑤避難者の支援	指定避難所で炊き出しを行ったり、給食や支援物資の仕分けなどのボランティア活動を行いました。

## 4

### 増田地区の災害対応計画

#### 地区で想定する災害

- ・直下型地震の地震動による住宅被害や液状化（地区全体）
- ・直下型地震等によるブロック塀の倒壊や火災（特に住宅密集地）
- ・大雨や集中豪雨に伴う増田川の氾濫による洪水と浸水（増田川周辺や低地）

阪神・淡路大震災や新潟中越地震のように建物に甚大な被害を与える直下型地震を引き起こす断層は、日本中どこにあってもおかしくないといわれていることから、大規模な直下型地震に対する備えも必要です。

また、近年の異常気象により、各地で時間雨量100ミリを超える経験したことのない豪雨が多発していることから、9・22集中豪雨災害を上回る規模の水害が発生することも考えられます。名取川が氾濫した場合は、地区全体が浸水することも想定されます。

#### ●海溝型地震と直下型地震

海溝型地震	海で発生する地震。津波を伴うことがある。直下型地震と比較して建物被害は少ない。
直下型地震	内陸で発生する地震。震源が近いため揺れが大きく、建物に甚大な被害をもたらす。余震が大きい。

## 地震災害時の対応

### 1 緊急地震速報や揺れを感じたら、自分の身を守る

倒れやすいものから離れ、頭を守りましょう。慌てて外に飛び出さないようにしましょう。

外にいる場合は、ブロック塀や自販機などから離れ、落下物に注意しましょう。



#### ●長野県北部を震源とする地震の重傷者

タンスが倒れ頭部挫創と肋骨骨折。タンスの下敷きになり足首骨折、ストーブから倒れたやかんの熱湯により両下肢熱傷。胸部圧迫による吐血。腰部圧迫骨折など。

※ 災害時には落ち着いて行動することが有効ですが、転倒防止対策はそれ以上に有効です。

### 2 揺れが収まったら、火元や家族の安全を確認し、隣近所に声をかける 情報入手を忘れずに！

ガラスなどで怪我をしないよう、スリッパや靴を履きましょう。

ラジオで地震情報を得て、直下型地震なら大きな余震に備えましょう。

#### ●新潟県中越地震の余震

新潟県小千谷市では、震度6強の本震から2時間以内に、震度6強（2回）、6弱（1回）、5強（4回）、5弱（3回）の余震がありました。

### 3 避難の判断

(1) 家屋が倒壊しそうな場合は、指定避難所に避難しましょう。

(2) 不安な場合は、一時避難場所に集まり、余震が収まったら家に戻りましょう。

(3) 避難の際は、通電火災に備えブレーカーを下ろし、ガスの元栓を閉め、非常持出品を持ちましょう。

※ 「通電火災」は、地震による停電が復旧した際、電気製品が再稼動したり、傷ついた電気コードがショートして、近くの燃えやすい物に引火する現象です。

### 4 海の近くでは津波の用心

(1) 海岸部で大きな揺れや長い揺れを感じたら、津波情報を得て高いところや遠くにすぐ避難しましょう。

(2) 津波は川を遡上するので、川から離れることも大切です。



東日本大震災時の増田西大橋



## 5 町内会・自主防災組織の活動

### ●自主防災組織の意義

阪神・淡路大震災では、地域住民が協力し初期消火で延焼を防ぎ、倒壊家屋から救助活動を行い、多くの命を救いました。要救助者の8割を地域住民が救助したのです。

大規模な地震が発生したときは、家屋の倒壊、火災の発生、倒壊物による道路の通行止め、信号の停止による渋滞などが発生し、行政の救助に時間を要することになります。

消防機関などの公助の活動が到着するまで、地域住民が協力し、防災活動を行うことにより、地域の被害を軽減することができます。

地域の防災体制の役割により、次の初動活動をすることが重要です。

#### (1) 安否確認、避難誘導

大きな地震が発生した場合は、まず安否確認です。

日頃から安否確認の体制を整備しましょう。

#### (2) 初期消火、救出・救護活動

消火器などを使い、初期消火を行いましょ。

防災用資機材などにより初期消火や救出・救護訓練を行いましょ。救出活動を行う場合は、余震に注意しましょ。



#### (3) 情報収集や情報伝達

被害状況を把握し、市に救助要請を行いましょ。

市からの情報を掲示するなど、情報伝達を行いましょ。

#### (4) 集会所など一時避難場所の開設、炊き出し

集会所や公園などに避難し、余震が収まるのを待ちましょ。

防災用資機材を活用し、炊き出しをしましょ。

長期滞在場所には物資が届くように市に要請しましょ。



#### (5) 指定避難所の運営協力、災害時要支援者の支援

指定避難所での協力や災害時要支援者の支援を行いましょ。

## 風水害時の対応

### ■対応の基本

- ・建物の2階以上に避難する。
- ・低い土地の平屋やがけの近くなど不安がある場合は、早めに避難する。
- ・浸水が始まってからの避難は極力避ける。

### 1 風水害への対応は情報収集から

集中豪雨、ゲリラ豪雨、落雷、竜巻などの風水害は、「大気の状態が非常に不安定になっているとき」に発生します。

普段からテレビ、ラジオなどの気象情報に注意し、「大気の状態が非常に不安定になっている」、「今年最大級の台風（寒波）」などの表現があったときは、情報を収集し、**台風や豪雨、大雪などが予想される場合、不要な外出は極力避けましょう。**

大規模な風水害が予想される場合は、停電や濁り水などに備え、備蓄品を確認しましょう。



テレビ



ラジオ

#### ●気象情報

記録的短時間大雨情報	時間雨量 100 mmを超える雨が降ったときに発表されます。市内で災害発生の危険性が非常に高まっています。
大雨特別警報	大雨により重大な災害が予想されるときに発表されます。直ちに命を守る行動が必要となります。
はん濫危険情報	河川はん濫のおそれがあるときに発表されます。河川の近くなどでは、早めの避難を行うことが必要です。

### 2 積乱雲の予兆現象を見たら、直ちに屋内に避難する

集中豪雨、ゲリラ豪雨、落雷、竜巻の原因は、積乱雲（入道雲）です。

#### ●積乱雲の予兆現象

- ・辺りが急に暗くなる……巨大な積乱雲が空をさえぎるため
- ・雷が聞こえる……………巨大な積乱雲の下で落雷が集中するため
- ・冷たい風を感じる……………積乱雲の下の重い冷気が、暖かい側に流れ出すため



### 3 避難指示、避難勧告、避難準備情報

名取市では、気象情報、河川の水位、降雨の状況から判断し、避難指示や避難勧告、避難準備情報を発表します。

エリアメールやテレビのテロップなどで市からの避難勧告を知った場合は、「なとらじFM 80.1MHz」で市からの情報を得てください。



上増田観測所の量水計（増田飯野坂橋付近）

### 4 最適な避難行動を！

集中豪雨、ゲリラ豪雨	浸水時の避難、夜間の避難は危険。水路で流される危険があります。 自宅の2階に避難しましょう。浸水しやすい土地の平屋では、早めに自主避難するか、浸水時には近所の2階に避難しましょう。
強風	速やかに建物に避難しましょう。 飛散物、上からの落下物に注意しましょう。
落雷	積乱雲の予兆現象から、直ちに建物や車に避難しましょう。 木の下で、雨宿りすることは危険です。
竜巻	積乱雲の予兆現象や竜巻を見たら、直ちに建物に避難しましょう。 雨戸やカーテンを閉めましょう。窓のない部屋に移動しましょう。

他の地区にいて自宅に戻れない場合は、無理に帰宅しようとせず、安全な建物にとどまることも必要です。

#### ●サイレンについて

増田地区には上増田警報所（名取市飯野坂 1-63-4）があります。  
サイレンが聞こえたら、川に近づかないようにしましょう。



サイレンの吹鳴パターン（3回繰り返し）

## 5 増田地区の災害予防計画

みんなで災害予防活動に取り組みましょう。

### 個人でできること（自助）～自分の命は自分で守る～

#### 1 防災に関する知識及び技術の修得

防災訓練や防災講座に参加し、防災に関する知識や技術を修得しましょう。

#### 2 災害時のシミュレーション・家族の話し合い

災害が起きたときの対応について家族で話し合い、避難方法や避難場所、電話が繋がらなくなったときの集合場所などを事前に決めておきましょう。

#### 3 非常持出品と災害備蓄品の準備

停電や断水などに備え、非常持出品と災害備蓄品を準備しましょう。



家具等の転倒

#### 4 家具などの転倒防止対策の実施等

特に寝室や脱出経路は、重点的に実施しましょう。

昭和 56 年 5 月 31 日以前の建物は耐震診断を受けましょう。名取市では耐震診断の支援を実施しています。



#### 5 住宅用火災警報器・消火器の設置

火災に備え住宅用火災警報器と消火器を設置しましょう。

#### 6 近所とのコミュニケーション

いざという時に協力しあえるよう、日頃から近所の方とコミュニケーションをとり、声を掛け合える関係を築きましょう。

### 町内会・自主防災組織でできること（共助）～自分たちの地域は自分たちで守る～

#### 1 災害時の役割分担や活動マニュアルなどの確認

役員交代の際など、災害時の役割分担や活動の手順を確認しておきましょう。



## 2 防災訓練や防災講座の実施

安否確認や避難訓練、初期消火、応急手当などの防災訓練、防災講座などを実施しましょう。

増田地区の町内会では、震度5強以上の場合、安心委員が住民の安否確認を行ったり、災害時の安否確認のため、黄色いハンカチ運動を行ったりしています。



## 3 一時避難場所の確保と防災資機材の整備

集会所や公園など地域の一時避難場所に防災資機材などを整備し、使用できるようにしておきましょう。

## 4 災害時要支援者への支援方法の検討

日頃から市と連携して、高齢者などの災害時要援護者への支援方法を考えておきましょう。

### 増田地区でできること（共助）～地域ぐるみの防災体制をつくる～

災害時には、「地域の絆」、地域の人たちの助け合いが重要になります。

町内会や自主防災組織の活動を行うことにより、日頃から地域の絆を深め、いざという時に互いに助け合うことが、住民の命を守ることに繋がります。

### 1 町内会・自主防災組織連絡協議会の設立

増田地区の防災活動を推進するため、連絡協議会を設立しましょう。

### 2 自主防災組織の設立推進

設立された自主防災組織連絡協議会に学び、各町内会で自主防災組織を設立しましょう。

### 3 地区防災訓練の実施

町内会単位での防災訓練とともに、避難所となる増田小学校や増田中学校で、地区全体の防災訓練を実施しましょう。

### 4 防災講座、防災研修会の実施

増田地区防災講座を実施するとともに、町内会・自主防災組織の情報交換を行い、自主防災活動の質の向上を図りましょう。

### ●東日本大震災時の増田地区の避難所

東日本大震災時の増田地区には、津波により沿岸部から多くの方が避難しました。避難者数は、最大で、増田小学校が1,188人、増田中学校が400人、名取北高校が600人、市民体育館が300人、増田公民館が70人、文化会館が1,200人など、公共施設が避難者で溢れ、りんくうタウンステーション同和警備などの民間建物でも避難者の受け入れを行いました。

増田地区の町内会は避難者のために集会所を開放し避難者を受け入れ、増田小学校に発電機や投光機を提供するなどの支援を行いました。

避難者は集団生活のルールを定め、避難者が食事や清掃などの役割を分担しました。巡回診療や健康管理、感染症の予防などの対策も行われました。

避難者は、炊出しや支援物資の提供、ボランティア活動に支えられ、避難生活をおくることができました。

### 町内会・自主防災組織を中心に、助け合って避難生活を送りましょう

市職員や施設職員の指示に従い、町内会や自主防災組織の役員を中心に次の協力をお願いします。

#### 1 避難所の開設・避難者の収容

建物の安全が確認されるまで、町内会ごとに建物の外で待機し、職員の指示に従い避難所に入ります。

#### 2 初期の避難生活 ～避難勧告などが解除されるか、電気・水道の復旧まで～

避難人数の確認、避難者名簿の作成、簡易トイレの設置、市からの食料・物資の配布などについて、協力をお願いします。

#### 3 長期の避難生活

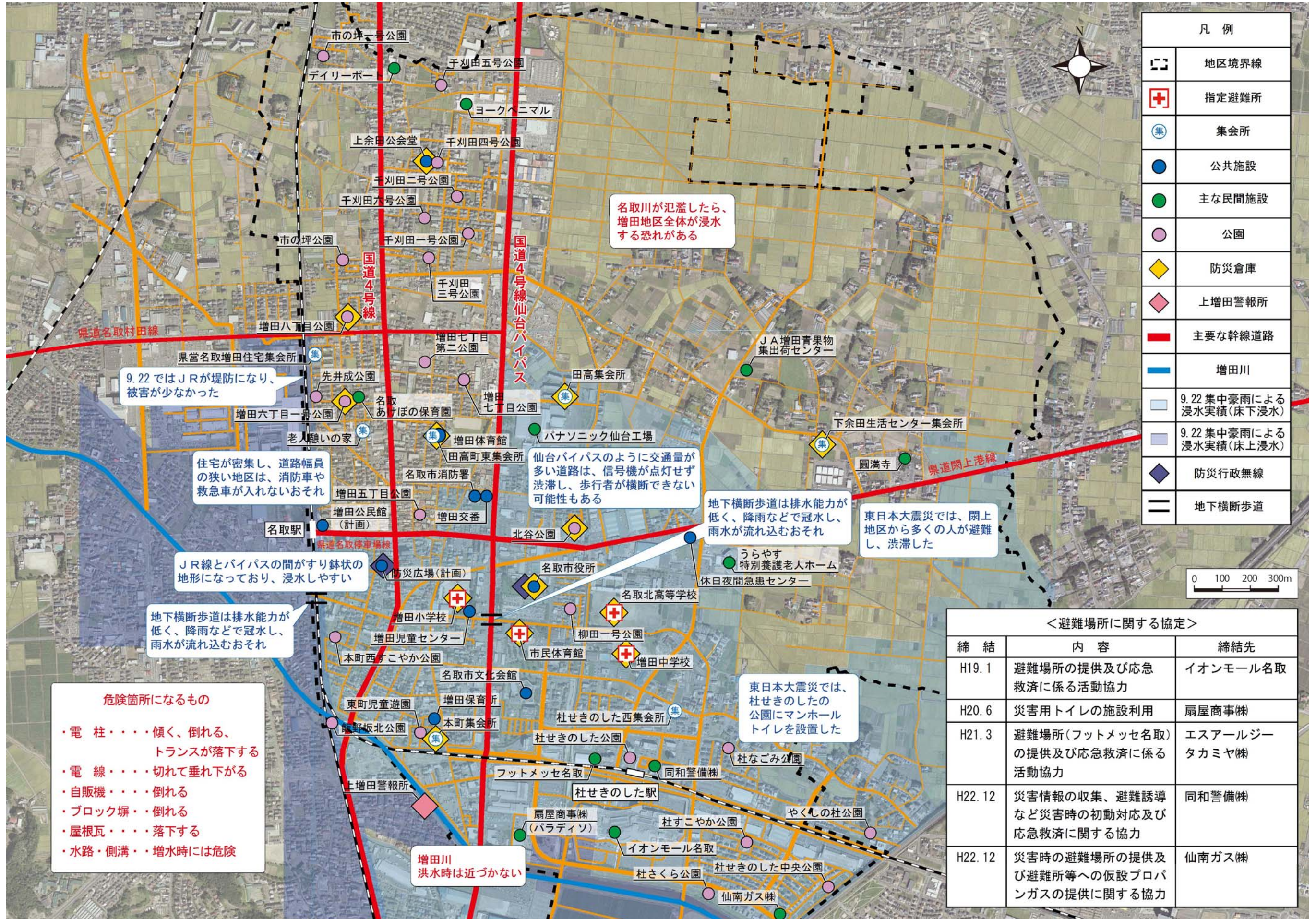
町内会などの単位で班を編成し、避難所自主運営組織を作り、役割分担を定め、避難生活を行います。



避難所では、高齢者や妊産婦などの災害時要支援者を思いやり、女性や子供に配慮してより良い環境を作りましょう。



7 増田地区防災マップ



- 危険箇所になるもの**
- ・電柱・・・傾く、倒れる、トランスが落下する
  - ・電線・・・切れて垂れ下がる
  - ・自販機・・・倒れる
  - ・ブロック塀・・・倒れる
  - ・屋根瓦・・・落下する
  - ・水路・側溝・・・増水時には危険

＜避難場所に関する協定＞		
締結	内容	締結先
H19.1	避難場所の提供及び応急救済に係る活動協力	イオンモール名取
H20.6	災害用トイレの施設利用	扇屋商事(株)
H21.3	避難場所(フットメッセ名取)の提供及び応急救済に係る活動協力	エスアールジータカミヤ(株)
H22.12	災害情報の収集、避難誘導など災害時の初動対応及び応急救済に関する協力	同和警備(株)
H22.12	災害時の避難場所の提供及び避難所等への仮設プロパンガスの提供に関する協力	仙南ガス(株)

浸水範囲は平成6年9月22日豪雨災害の浸水実績です。これ以上の被害になることがあります。



## 8 平成 25～26 年の災害と教訓

全国で発生した災害から災害時の行動を考えましょう。

災 害	状 況	教 訓
秋田・岩手豪雨 (H25. 8. 9) (時間雨量 100mm 超)	秋田・岩手の各地で観測史上最大の雨量を記録し、洪水はん濫が発生、土石流などにより 8 人が亡くなった。	気象庁は、 <b>局地的豪雨を正確に予測することは現行技術では難しい</b> と会見
越谷市の竜巻 (H25. 9. 2) (風速 50～69m)	発達した積乱雲により竜巻が発生し、長さ 19km、幅 300m にわたり、家屋や屋根が吹き飛ばす、ガラスが飛び散るなどの被害が発生した。	埼玉県で全壊 12 棟、半壊 31 棟、重症 7 人、軽症 56 人⇒ <b>竜巻や積乱雲の前兆現象を見たら屋内に入る。</b>
伊豆大島の土砂災害 (H25. 10. 16) (時間雨量 100mm 超)	台風 26 号により、伊豆大島で 1 時間に 100 mm 以上、24 時間で 824 mm の記録的な大雨となり、大規模な土砂災害が発生した。	大島町で、全壊 46 戸、死者・行方不明者 39 人⇒ <b>土砂災害から命を守るためには避難が必要</b>
平成 26 年 2 月の大雪 (H26. 2. 14～16) (山梨県で観測史上最大の大雪)	前線を伴った低気圧が発達し、各地で大雪となり、9 県で 26 人が死亡、全国で重症 118 人、軽症 583 人の被害が発生した。120 年間 50cm 以上の雪が積もらなかった山梨県に 100cm 以上の雪が積もった。	死者は、倒壊した車庫等の下敷きで 7 人、屋外で 7 人、車内の一酸化炭素中毒等で 5 人、除雪事故で 4 人、上部からの落雪で 3 人⇒ <b>不要な外出を避ける。</b>
南木曾町の土砂災害 (H26. 7. 9) (時間雨量 80mm)	局地的豪雨により、大雨・洪水警報、土砂災害警戒情報発表前に土砂災害が発生した。白い雨 (80mm 以上の雨) が降ったら、蛇がぬける (土石流が起きる) との石碑があった。	局地的豪雨では、警報が間に合わない場合がある⇒ <b>雨の降り方から自己判断が必要な場合もある。</b>
四国地方の大雨 (H26. 7. 7～11) (累計雨量 1,000mm 超)	台風 11 号と前線により、四国から東海にかけて 600 mm を超える大雨となり、5 県で 6 人が亡くなった。 高知県では累計雨量が 1,000 mm を超えたが、死者はなかった。	川と海水浴場で 3 人、落雷で 1 人が亡くなった。 ⇒ <b>不要な外出を避ける。台風の常襲地帯では、風水害への備えが徹底している。</b>
広島県の土砂災害 (H26. 8. 20) (時間雨量 100mm 超)	1 時間に 100mm を超える猛烈な雨により、土砂災害が発生し 74 人が亡くなった。	就寝中に予期せぬ猛烈な雨になることもある⇒ <b>雨音や雷から状況判断が必要</b>
長野県北部地震 (H26. 11. 22) (最大震度 6 弱の直下地震)	22 時 8 分頃、長野県北部を震源とする地震が発生。白馬村で建物が全壊し、住民が閉じ込められたが、近隣住民の速やかな救助活動により、全員無事に救出された。	直下地震で建物が倒壊したときなど、 <b>個人の力ではどうしようもないとき、隣近所、町内会などの共助が力を発揮する。</b>



## 9 我が家の防災メモ

### <家族の状況>

氏名	かかりつけの病院	携帯電話番号
生年月日	持病・常備薬	会社・学校等の名称
血液型		会社・学校等の電話番号
年 月 日 型 Rh +・-		
年 月 日 型 Rh +・-		
年 月 日 型 Rh +・-		
年 月 日 型 Rh +・-		
年 月 日 型 Rh +・-		
年 月 日 型 Rh +・-		
年 月 日 型 Rh +・-		
避難場所		
家族の集合場所		

### <我が家の状況>

東日本大震災での状況	家具の転倒	有 ・ 無
9・22集中豪雨の時の状況	床上浸水 ・ 床下浸水 ・ 浸水なし	
建築年	昭和 ・ 平成 年 ( 昭和 56 年より 前 ・ 後 ) ※昭和 56 年以前の建物は耐震診断を受けましょう	
家屋の構造	平屋 ・ 2 階以上 / 木造 ・ 軽量鉄骨	
	平屋の場合：浸水時の避難先 [ ]	
家の周り	浸水しやすい地域である	はい ・ いいえ
	近くに水路が	ある ・ ない
	風で飛ばされやすいもの	ある ・ ない
災害時の備え	非常持出し品の用意	有 ・ 無
	災害備蓄品の用意	有 ・ 無
	携帯ラジオの用意	有 ・ 無
	消火器の用意	有 ・ 無

### <防災カード>

氏名：	生年	年
	月日	月 日 生
住所：		
電話番号：	血液型	Rh + ・ -
家族 ( 保護者 )	氏名：	
	電話番号：	
会社・学校等の住所：		
電話番号：		
かかりつけの病院：		
持病・常備薬：		
その他：		

氏名：	生年	年
	月日	月 日 生
住所：		
電話番号：	血液型	Rh + ・ -
家族 ( 保護者 )	氏名：	
	電話番号：	
会社・学校等の住所：		
電話番号：		
かかりつけの病院：		
持病・常備薬：		
その他：		

※コピーしてカバンなどに入れて携帯しましょう

## 増田地区の避難場所

区分	名称	電話番号
指定避難所	増田小学校	022-382-2005
	増田中学校	022-384-2329
	市民体育館	022-384-3161
	名取北高等学校	022-382-1261
地域の 一時避難場所など	増田体育館	—
	本町集会所	—
	田高町東集会所	—
	老人憩いの家	—
	県営名取増田住宅集会所	—
	田高集会所	—
	上余田公会堂	—
	杜せきのした西集会所	—

## 災害時の連絡先

区分	名称	電話番号
市役所	名取市役所	022-384-2111
警察 110	岩沼警察署	0223-22-4341
	増田交番	022-382-3010
消防 119	名取市消防本部	022-382-0242
	名取市休日夜間急患センター	022-384-0001
	災害伝言ダイヤル	171

## 親戚・知人などの連絡先

氏名	電話番号	備考

## 名取市総務部防災安全課

〒981-1292 名取市増田字柳田 80

電話 022-384-2111